

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所 ふおれすと		
○保護者評価実施期間	2024年 1月 1日		～ 2024年10月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21	(回答者数) 21
○従業者評価実施期間	2024年 1月 1日		～ 2024年 10月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2024年 12月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・言語療育を行っている。(3歳児以上)	・言語聴覚士による専門的な療育を行っている。	・言語聴覚士による療育の日数を増やしていく。
2	・個別療育を丁寧に行っている。	・1人ひとりの発達段階と特性に応じた活動を日々立案し、丁寧に行うようにしている。 ・毎日職員で今日の療育の振り返りをし、考察すると共に情報共有し、次回の療育に繋げるようにしている。 ・連絡帳や送迎時の保護者との会話で、子どもの姿について、密にやりとりをするようにしている。	・1人ひとりに合うねらいの設定は職員の共通認識の元で丁寧に行っていく。 ・引き続き、職員同士の意見交換を活発に行うことができる時間を作っていく。 ・保護者と同じ方向を向いて支援ができるよう連絡帳や送迎時の会話は大切にしていく。 ・研修、教材研究等により、質の高い療育を目指していく。
3	・集団療育であっても手厚い援助をするために実態に見合った職員配置を行っている。	・ほぼ1対1で職員の配置をし、職員が個々の状況に応じて十分な援助できるようにしている。 ・ねらいに則した活動内容であったかを職員で意見交換し、考察し次回の療育に繋げている。 ・季節感や多様性を重視し活動内容を工夫している。	・十分な援助ができるよう職員配置は実態に見合った配置を行い、療育を提供していく。 ・毎日の療育の振り返りの中で、考察し、職員同士が連携、協力して療育を行うようにしていく。 ・療育がマンネリ化しないように工夫していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・保護者同士の交流支援	・朝から療育を行っているため、職員や場所を確保できず、保護者の集まることのできる機会が限られた。 ・学びの機会を提供することの方に重きをおいていたため、保護者同士の交流についてはあまり重視していなかった。	・今の環境の中で出来る方法で取り組んでいく。 ・保護者同士の交流の機会は増やしていく。
2	・兄弟支援	・部屋に多数の子どもを受け入れるだけの広さがない。	・今の環境の仲で出来る方法で取り組んでいく。
3	・地域とのつながり	・今のところ保護者からの要望がない。	・保護者の要望があれば考えていく。